

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570208678		
法人名	有限会社さくら介護サポート		
事業所名	グループホームさくら荘		
所在地	秋田県能代市字轟34番地3		
自己評価作成日	平成30年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周囲に田んぼや畑があり、興味がある入所者様には野菜の収穫等行っていただき、季節の移り変わりを体感していただいている。また、興味があっても身体的衰えで収穫作業ができなくてもペランダから畑を眺めていただき、気分転換が図られるよう支援しています。ホーム内での共用スペースはできる限り広く設計されており、閉塞感を持たないよう努めている。ご家族との面会も自由に行っていたり、入所者様と同様にご家族にも安心できるよう配慮に努めている。

代表者の病院における看護職経験から、医療機関との情報共有が円滑に行われており、利用者の容態の急変時には代表者の的確な指示・対応に職員がとても心強いという。また、以前は事業所の向かいの住宅で体調不良者がいた際に、代表者が対応の応援に向かったことであるとの言葉が印象的である。事業所の周囲にある田んぼや畑は、代表者が所有していることもあり、お米や旬の野菜が確実に手に入り食卓を賑わせている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見えやすい場所に理念を掲示し共有、実践できている	職員は、日頃から支援の場面毎に理念を実践できるよう心掛けているとともに、代表者から職員への説明がなされ、共有しようとする取り組みを確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が地域の自治会に加入し、散歩のとき等は地域の人とコミュニケーションを図り、交流している	管理者が地域住民から介護相談を受けることもある。利用者は事業所周辺を職員とともに散歩したり、近隣の保育園児が散歩の途中で事業所の玄関口まで訪れるなど、地域との往来がある。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	介護相談などを受け、説明等を気軽に行えるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	能代山本医師会事務局長を交えて行っており、情報交換を行い、サービス向上に活かしている	以前は入居していた利用者の家族が会議のメンバーとなっていたが、現在は代表者を含め3名の参加者となっている。会議では、医療面からも行政面からも貴重な意見が伺えるとのこと。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所職員が参加して意見交換などを行い協力関係を築くよう取り組んでいる	制度上または、運営上でも疑問に思ったことは何でも質問ができ、情報交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備し、市役所と情報交換を行い、常に取り組んでいる	代表者が必要な分野を選んだ研修の年間計画がある。実地指導の機会に身体拘束等に関する最新の情報を得て、それを職員へ伝える取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各入所者様のカンファレンスを定期的に行い、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度が必要な場合は、入所前に居宅支援事業所と話し合いを行い、手続きを行っていただき、手続きが完了してから入所していただいている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の説明は十分に行い、納得していただいてから入所していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者様とは日頃からコミュニケーションを図り、ご家族に対しては月に一度の状態報告書を郵送し、意見や希望があった場合には、カンファレンスを行い運営に反映させるよう努めている	月毎の立て替え金の明細や利用者の様子等を記載した状態報告書を、家族へ郵送している。立て替え金の精算等を含め家族等は、頻繁に面会に訪れており、その際には介護保険に係る認定の更新等の話題を含め話し合いながら意見をくみ取るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から話し合いを行い、また定期的に食事会なども行い、意見交換を行い反映させている	職員は、随時利用者等職務上の必要な情報交換を行い、代表者へそれらを伝えることで、疑問解消や助言を得ている。さらに代表者は、職員が働きやすい環境を整えるため残業のないよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績に応じて昇給を行っている。また、資格取得を促すよう話し合いを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修参加年間スケジュールを制作し、参加させており、参加後は伝達講習を法人内で行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の老人保健施設と協力施設と提携を結んで取り組みを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にご家族から、生活暦を詳しく聴取させていただき、それを元に入所者様ご本人とコミュニケーションを図り、その中から情報を収集し努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族構成や介護環境などを詳しく聴取させていただき、入所は不安のないよう安心していただけるよう努めている		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者様一人ひとりの性格を把握し、一緒に生活できているという関係を持てるよう努めている		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所時に家族構成や介護環境などを詳しく聴取させていただき、入所は不安のないよう安心していただけるよう努めている		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はなく、だれでもいつでも面会し、入所前の人間関係を途切れないよう支援している	兄弟等身内の面会が頻繁にあり関係の継続性が確認できた。近隣住民とは、周辺を散歩すると互いに声を掛け合う間柄となり、事業所の生活における新たな顔馴染みの関係が構築されている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者様一人ひとりの性格を把握し、一緒に生活できているという関係を持てるよう努めている		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所が決まった場合は、退所後のフォローをしっかりと計画している。また、退所後他界された場合でもご家族がホームに馴染みがあり、入所者様との思い出の場と思われる場合は、遊びに来ていただく等努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者様一人ひとりの性格や生活歴を把握し、一緒に生活できているという関係を持てるよう努めている	職員は、利用者の日常生活をよく観察し、入居時から比べて老いによる衰えを見つめ受け入れることで、個々に合った生活スタイルを提供するよう心掛けている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族から、生活歴を詳しく聴取させていただき、それを元に入所者様ご本人とコミュニケーションを図り、その中から情報を収集し努めている		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン作成の中で把握し努めている		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い制作している	代表者の指導もあり、常に明確で簡潔な記録が心掛けられている。毎月のはじめにはカンファレンスがあり、そこで職員を含めて検討課題を整理し、モニタリングによりプランの継続や追加について見極めながら作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的カンファレンスを行い制作している		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩等で地域の人たちを交流したり、ホームの畑で収穫を行い心身が豊かに過ごせるよう努めている		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所者様、ご家族の希望を聞き、対応している	かかりつけ医や協力医療機関からの2週間に1回の往診にて、日々の健康管理を実施している。必要に応じてFAXを活用した状況報告を行い、医療機関との情報共有に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が準看護師であるため、入所者様の状態の変化を常に把握し、協力医療機関と連携を図り支援している		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は3ヶ月間は居室をそのままにして退所はさせていない。入院中の経過は病院関係者と常に取っている。また、入院時にはサマリーを制作し情報の共有を徹底している		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル、看取りは行っていないことを入所時に十分説明し入所していただいている	協力医療機関との話し合いから現時点で看取りは行えないと判断し、それを踏まえ入居する際に本人、家族等へ説明し同意を得ている。急な容態の変化には、代表者が事業所の向かいに住み、病院での看護経験を活かしながら、利用者の病歴や直近の状況を記したサマリーを作成し、迅速に医療機関へ引き継いでいる。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡網を整備し、行っている		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	連絡網を整備し、行っている。また避難訓練を年2回実施している	代表者をはじめ、職員数名が近隣に住んでいることもあり、非常災害時には駆け付ける体制がある。煮炊きができるカセットコンロが準備され、停電に備え発電機を購入するなど対策を講じている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様一人ひとりの性格や入所までの生活歴を把握し対応している	代表者は守秘義務等プライバシーの重要性を職員へ説明し誓約書をもっている。利用者へ生活上守ってもらいたいことは、代表者が丁寧に説明し一人ひとりを尊重することを心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	判断能力のある入所者様に関しては、個人で必要なものを聞いて購入したり、居室の模様替えを行っている		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	判断能力のある入所者様に関しては、個人で必要なものを聞いて購入したり、居室の模様替えを行っている		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝たきり状態であっても、日中は私服に着替えていただき支援している。また、化粧なども支援している		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃のコミュニケーションから好き嫌いを把握し、希望に沿うよう食事のメニューを制作し努めている。また、掃除や食事の後片付けに関しては、入所者様ご本人から申し出があった場合手伝っていただいている。日課にしてしまうと、精神的負担になるため、その日の常態とご本人からの申し出に基づいて行っている	代表者宅が農家のため、新鮮な野菜やお米を調理し提供することができる。品数の多いおかずも、温かいご飯と味噌汁も利用者には好評である。献立は、職員が利用者の好みを踏まえて1週間ごとに作成している。利用者から買って来て欲しい物を頼まれると、食材の買い出しの際に同時に購入し喜ばれている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量などはチェック表に記載し、経過を把握している		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや全面介助で行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室内にポータブルトイレを設置したりして、個人個人の身体的能力に応じて対応している	排泄行為における衣類の着脱も重要視し、利用者ができることは本人に取り組んでもらえるよう支援している。日中はタイミングを見極めトイレ誘導し、夜間は居室に置いたポータブルトイレと併用できるよう配慮している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便排尿の回数をチェック表で把握し、水分摂取量を考慮しているが、下剤の使用も併用している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り希望に沿うよう努めている	設立当初から、お湯の使用量、衛生面、体が温まりやすく利用者への負担感が少ないとされるミストサウナを導入している。体調等を考慮してどうしても入浴できない場合は、温かいタオルでの清拭を行っている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、対応している		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医療機関と意見交換を行い努めている		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理をさせず、興味のあることを引き出すようにして支援している		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見に行ったり、近所を散歩したりして行っている。また本人とご家族での外出等もできるよう支援している	平成27年度の目標達成計画に対し、能代市の市街地にある公園へ桜の見物に出掛けていることが確認できた。普段は、利用者の体調や天候に応じて、近隣を散歩することが多いとのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていません。必要なときにはホームが全額立替している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは余裕を持って広く設計されている。ホーム内の温度も全館同じ温度で保たれている。また、館内は空調システムにより循環しており、トイレや居室からの不快な臭いは共有スペースに逆流しない構造になっている	代表者の考えがあり、設立当初から居室、居間、廊下等には十分なスペースが確保されている。トイレの窓ガラスには、強すぎる西日を遮るための遮光フィルムが貼られており、刺激を抑える配慮がなされている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人個人の性格や仲にいい入所者様同士がくつろげるよう勤めている		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは自由にしていただいております、配置等もご本人様と話し合いながら行っている	居室にはベッドが備え付けられており、それ以外の家具は、それぞれの利用者の状況を考慮しながら使い慣れたものを配置し、入居を始める前の部屋に近い状態を心掛けている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残された能力に応じて無理のない程度で行えるよう努めている		